

CAMPUS NET

特集

本学における SDGs の取り組み

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



本学における SDGsの取り組み



石川県立看護大学は、一人ひとりが真の豊かさを実感でき、生涯にわたり生きがいと活力をもって暮らすことができるように、社会に貢献していきたいと思っています。この実現に向けて、日々取り組んでいる「真に喜ばれる看護を提供できる職業人の育成」と「社会や臨床に貢献できる活動と研究」のすべてが、SDGsにつながっています。最近の取り組みの一部をご紹介します。

1 学生の取り組み

① 授業での活動

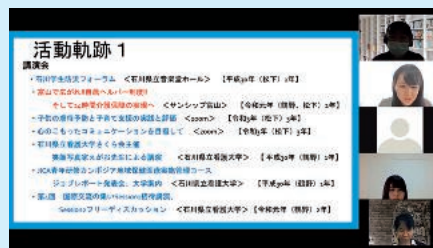
その地域に住むあらゆる年齢の
すべての人々の健康を考える

教務委員会ヒューマン・ヘルス・ケア担当
在宅看護学 准教授 桜井 志保美

「ヒューマン・ヘルス・ケア」(選択科目)では、公開講座・講演会、地域でのボランティア活動への参加を通して、かかわった地域の健康課題を明らかにし、そこに住む人々と共に課題解決の方策を企画・提案します。そして、この一連の活動を通して、保健・医療職としての課題解決能力の基盤を養うことを目的としています。履修期間は1年後期から4年前期と長期にわたり、現在は異学年の学生72名が、9班に分かれて履修登録しています。これまでに学生は、地域特性や地域レベルでの対応が必要な課題に対す



る働きかけを意図したもの(限界集落、奥能登、災害)や、健康づくり等への支援活動、健康や発達課題別の支援活動(障害支援・学習支援、骨髄バンク)、国際交流(ジャパネット、市町の国際交流事業)など様々な健康や生活に係る課題の解決に取り組み、成果を報告しています。どの学生も、成果報告会に至るまでの活動を思い出しながら、いきいきとした表情で報告する姿が印象的でした。昨年度からコロナ禍の影響で、対面での活動を自粛しており、現在、学生たちは、活動を再開したいと、新型コロナウイルス感染拡大の収束を心待ちにしています。



活動の発表の様子

② ゼミでの活動

「健康弁当」による
「健康になれるまち」づくり

人間科学領域 教授 垣花 渉

私のゼミでは、学生と住民が協働して住みよいまちをつくる活動を、2011年から続けています。活動のきっかけは、その年起こった東日本大震災でした。この震災から私は、「人と人がつながること」は他者の立場で物事を考え、他者の意図や気持ちを理解し、他者を思いやり、他者と協働して物事を行う資質・能力を育てることを学びました。

まちをつくるプレーヤーには、住民や学生のほか、行政、企業、NPOなどが考えられます。これらのプレーヤーが持つ潜在的な能力を引き出すとき欠かせないものが、「パートナーシップ」という考え方です。「パートナーシップ」とは、平たく言うと、「活動する主体である各プレーヤーが、対等かつ自由な立場で、共通する目的のために協働する関係」です。

ゼミの活動の一つに、産学官民の連携による「健康弁当」の創作があります。ゼミでは、かほく市の抱える健康問題(糖尿病死亡率が2010年度に石川県内ワースト1位)へ対応するため、農の生産者や弁当業者と連携して、2012年に初めて「健康弁当」をつくりました。その後、行政も巻き込み、各プレーヤーが対等かつ自

由な立場で意見交換を重ねた結果、「カロリー 600キロ、塩分3g未満、野菜150g以上の健康弁当」として、2016年から市内のイベント等で定期的に販売されるようになりました。「健康弁当」は、市内の小学校の食育授業にも使われるようになり、市民の「健康な食事」への意識啓発に一役かかっています。このような継続した活動をとおして、「健康弁当」に係る各プレーヤーは信頼関係を深め、自分たちの住むまちへの愛着を持ちながら、食による健康増進と産業振興を図るまちづくりを推進しています。



「健康弁当2020」(健活弁当)

「目標達成に向けたパートナーシップを築くために、こうしたらうまくいく」という正解はありません。お互いのプレーヤーがお互いのもつ文化や考え方を尊重し、試行錯誤をしながら、よりよい信頼関係を築くこととなります。



第3回食育活動表彰(農林水産省主催)を受けた各プレーヤー

③ サークルでの活動

地域に根ざした 「子育て応援隊ひよっこ」の活動紹介

小児看護学 助教 千原 裕香

「子育て応援隊ひよっこ」は、子どもとその保護者への子育て支援を通して、学生自身も人として一緒に成長したいという思いから2017年5月に設立されたサークルです。

【子育て応援隊ひよっこが貢献できるSDGs目標】

- 目標3 「すべての人に健康と福祉を」
- 目標5 「ジェンダー平等を実現しよう」
- 目標17 「パートナーシップで目標を達成しよう」

サークル設立当初は、かほく市役所を度々訪問して、学生が主体的にできる活動について、市の担当者の方に相談に乗っていただきました。そのお陰で、私たちの活動も5年目に入り、現在もかほく市と協働し、地域の子育て支援の一助を担う活動を続けています。

<主な活動内容>

- ①かほく市子ども総合センター「おひさま」来所者との交流
(託児ボランティア)

来所された子どもと一緒に遊んだり、大型絵本の読み聞かせを行ったりしています。日頃接する機会が少ないお姉さん、お兄さんとの交流は、子どもにとって良い刺激が得られる機会になっていると好評です。また、子育てで引きこもりがちな母親にとって、子育て経験のない学生たちとの子育てに関する話や、非日常になりつつある何気ない会話(美味しいお店や趣味など)は、とても良いリフレッシュになると喜ばれています。

- ②親子イベント等の運営ボランティア
かほく市が主催する親子イベント等に運営ボランティアスタッフとして参加しています。



かほく市子ども総合センター「おひさま」で来所した子どもと一緒に遊ぶ(託児ボランティア)



かほく市イクメンプロジェクト 親子ふれあい遊びの運営をお手伝い

※写真は2020年以前のものです



8月: かほく市内のこども園の夏祭りに参加し、準備や後片付けの他、ヨーヨー釣りや輪投げなどのコーナーを担当しています。

9月: かほく市主催のわくわく運動会に参加し、競技の手伝いの他、着ぐるみを着てダンスなどをしています。

10月: かほく市主催のPAPATOフェスティバルに参加し、新生児抱っこ体験や妊婦体験の運営補助をしています。

【今後さらに貢献したいと考えているSDGs目標】

- 目標1 「貧困をなくそう」
- 目標2 「飢餓をゼロに」
- 目標4 「質の高い教育をみんなに」

「子育て応援隊ひよっこ」は、新たに子ども食堂ボランティアにも参加し、現在子ども食堂の数がゼロであるかほく市で、かほく市社会福祉協議会などのサポートを得ながら、子どもも大人もみんなが訪れることができる「コミュニティ食堂」を開催するための準備を進めています。コミュニティ食堂では、食の提供だけでなく、地域住民の交流の場の提供、居場所づくり、学習支援などを行い、地域のニーズに合わせた活動を行っていきたいと考えています。



看護キャリア支援センターの取り組み

看護職のキャリア形成を支援、推進する中核拠点としての「看護キャリア支援センター」

看護キャリア支援センター長
在宅看護学 教授 林 一美

SDGs目標3で提唱された「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」に関する人材育成については、本学の学部教育(基礎教育)はもとより卒業後教育への貢献が求められています。本学の3つの附属施設の1つに「看護キャリア支援センター」が置かれています。

看護キャリア支援センターは、高度化、専門化する医療・看護の社会的ニーズに応え、県民の健康・福祉の向上に寄与するため、看護に関する資格取得などの看護職者のキャリア形成を支援、推進する中核拠点として2013年に設立しました。業務内容は、①看護師等のキャリアアップの啓発に関すること、②認定看護師教育課程の実施に関すること、③認定看護師及び専門看護師に対する教育・支援に関すること、④その他看護師等のキャリアアップに関することを行っています。

2021年度は事業内容として2つの教育課程「感染管理認定看護師教育課程」、「認定看護管理者教育課程(サードレベル)」と石川県から委託された以下の4つの事業「新型コロナ患者受け入れ医療機関への感

染管理認定看護師確保重点支援事業」、「専門的看護実践力研修事業(分野別実践看護師養成研修:皮膚・排泄ケア看護)(スーパーバイザー研修:看護管理研修)」「石川県看護教員現任研修事業」を行っています。

特にCOVID-19(新型コロナウイルス感染症)の感染拡大により、2021-2022年度は「感染管理認定看護師教育課程」において募集人数を増員しました。履修生は全国各地の医療機関のみならず、訪問看護ステーションや感染制御ネットワーク団体などから来ています。また本年度から「新型コロナ患者受け入れ医療機関への感染管理認定看護師確保重点支援事業」を年度2回開催して、多くの県下看護職の皆様の感染管理実践能力の向上の支援を行っています。



「感染管理認定看護師教育課程」開講時オリエンテーション



「感染管理認定看護師教育課程」微生物演習



3

地域ケア総合センターでの取り組み SDGsの考え方を地域に活かせる人材を育成する



SDGs de 地方創生 公認ファシリテーター
風水害24 公認ファシリテーター
基礎看護学 講師 寺井 梨恵子

地域ケア総合センター地域貢献事業として、2020年度より「わたしと地域の未来を変革するSDGs」に取り組んでいます。本事業の目的は、「①SDGsの理解を深めながら、自分の生活の中でできることを落とし込み、行動に移すこと」および、「②学生と地域住民の交流を行いながら、SDGsに取り組むことを通して持続可能な社会づくりの担い手を育む教育を行うこと」としています。事業開始時より新型コロナウイルス感染症の流行により、地域住民との交流は実現していませんが、学内開催を行い、学生とSDGsの理解を深める活動を進めており、これまでに7回の事業を行い、学生と教職員70名が参加しています。本事業では「我々の世界を転換する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」の後半にあるSDGsを理解する前に、前文にあるSDGsの土台となった理念について、体験を伴って理解することに重点を置いています。そのため『SDGs de 地方創生カードゲーム体験会』と『風水害24ゲーム体験会』を中心に開催しています。特に、『SDGs de 地方創生カードゲーム体験会』では、2030アジェンダの「持続可能な開発の三側面（経済、社会及び環境）の調和」に加え、「人口」との関連を捉えながら、地方創生のためにSDGsの推進がどのように影響しているかを体感して理解します。ゲーム中は、これらの4つの指標を「見える化」し、それぞれのパラメーターが「連鎖」していることや、「全部を同時に」推進する必要性があることを実感できるようにしています。さらに、プレーヤー同士の志を達成するために「対話」を通して、「パートナーシップ」について、それぞれの役割を演じながら疑似体験を行います。ゲームの後半には、「誰ひとり取り残されず」すべての参加者の志が達成できるよう、様々なSDGsが達成されるよう、共通の課題として捉えて動きだし、クライマックスを迎えます。



SDGs de 地方創生 振り返り



風水害24

4

学外での取り組み 新型コロナウイルスに対する 取り組み



昨年度より、地域の近隣病院への感染対策支援物資の寄贈や近隣病院およびホテル療養者への職員派遣を行ってまいりました。また、高齢者施設・障がい者施設職員向け新型コロナウイルス感染予防動画や感染症対策ハンドブックやリーフレットの作成を行い、地域で療養される皆様や、現場でのケアを担う職員の皆様への支援を行ってまいりました。そして、今年度は、6月より石川県健康福祉部健康推進課より依頼を受け、いしかわ県民ワクチン接種センターに職員を派遣し医療業務の応援を行っており、今後も自宅療養者への支援が予定されています。石川県立看護大学では、これからも新型コロナウイルス感染症対策への継続した支援を行ってまいります。



感染対策支援物資を準備する石垣学長、教員



教授 岩佐 和夫
Kazuo Iwasa

専門分野 脳神経内科、内科、神経免疫学

● PROFILE

群馬県太田市出身。1989年に金沢大学医学部卒業。金沢大学大学院博士課程修了後、1999年～2001年英国オックスフォード大学に留学。金沢大学大学院脳老化・神経病態学(脳神経内科学)准教授を経て、2020年から現職。

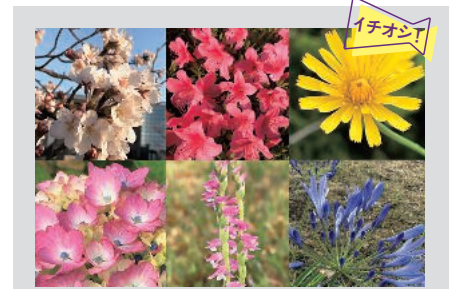
自己に対し免疫が反応し発症する神経疾患の病態を解明

免疫機構は主に外部からの微生物などを排除するために働きますが、この免疫機構が自分の組織や細胞に作用することがあります。これを自己免疫疾患といい、運動ニューロンから筋に情報を伝える部位(シナプス)に影響を及ぼして発症する疾患があります。代表的な疾患が重症筋無力症になります。これまで行ってきた研究は、この重症筋無力症の病態解明と副作用を抑えた治療法の開発になります。

自己免疫疾患がどうして発症するのかは不明なままですが、症状が出現する病態は解明されてきており、この病態を踏まえた治療法が開発されてきております。また、免疫機構には免疫の暴走を抑制する機構も存在しており、この抑制機構を調整できれば、自己免疫疾患の治療につながる可能性があります。ただし、免疫機構を抑制しすぎると悪性腫瘍や予想外の感染症を発症することがあり、諸刃の剣になる治療法の

難しさを感じております。

神経と筋を相手に研究をしてきたところ、これらの組織にも免疫を調整する機能が備わっていることがわかってきました。このような組織特異的な免疫調整機構をコントロールすることで、疾患に限定された免疫抑制療法が可能になると考え、研究を進めているところです。



高校では神谷美恵子、大学では遠藤周作と歴史本、留学中はKazuo Ishiguro、今は原田マハと辻村深月が寝る前のお供です。ハマっているのは看護大学で咲く花の写真を撮ることです。



准教授 桜井 志保美
Shihomi Sakurai

専門分野 地域看護学、在宅看護論

● PROFILE

大阪出身。博士(看護学)。大阪府で保健師として勤務。その間、派遣法を利用して青年海外協力隊に参加(保健師・インドネシア)。帰国後、学士取得。名古屋大学、金沢医科大学を経て、2016年から現職。

家族介護者への健康支援、医療的ケア児の養育者への育児支援

誰もが、安心して暮らせる社会になることを願って、療養児/者の介護者への支援をテーマに研究に取り組んでいます。

1. 医療的ケア児の養育者に対する育児支援に取り組んでいます。NICUから退院して通所系のサービスを利用する2歳ごろまでは、訪問看護師が在宅ケアチームの中で最も多くかかわる専門職です。そこで、訪問看護師向け医療的ケア児の育児支援ハンドブック作成に取り組んでいます。現在は、小児専門の訪問看護ステーションで働く訪問看護師の方々が実施した育児支援について内容分析をしています。
2. 認知症の高齢者を同居して介護する家族の高血圧予防を目的に検査データを用いて、ストレスや睡眠の実態を調査します。介護者の元気は、介護者自身だけでなく療養者、家族の生活の質に直結します。定期的なレスパイトケアによる睡眠の効果やリラクセス

等のストレス解消法について、家族の会で話をさせていただいています。

3. グループホームで働く介護職を対象としたストレス緩和や倫理観確立を目的としたプログラム開発に取り組んでいます。

研究に協力して下さった多くの方々の期待に応えられるように、研究成果を地域で生活する方々に還元していきたいと考えています。



セキセイインコのMelです。飼い主に似て好奇心旺盛。家出し警察に保護歴1回。次回の逃亡に備え、名前と住所が言えるよう特訓中です。

新任教員紹介

今年、赴任した先生方です。
よろしくお願いたします。

①出身地 ②前任 ③現在の仕事内容 ④趣味



松田 幸久 人間科学領域 准教授

- ①石川県
- ②福山市立大学
- ③専門は心理学。授業では1年次に「心理学」、2年次に「臨床心理学」を担当しています。「アカデミックリテラシー」という大学入門の授業も受け持っています。
- ④日曜大工、機械工作。



工藤 義信 人間科学領域 講師

- ①神奈川県横浜市
- ②金沢大学
- ③中世イギリス文学を研究しています。古い英語の文学作品を読み解き、当時の本をめぐる文化について考えています。日常生活や看護実践に役立つ英語を教えています。
- ④以前はよく将棋をしていました。今でも将棋ニュースをよく見ます。



江波 麻貴 附属看護キャリア支援センター 特任講師

- ①石川県金沢市
- ②(出向元) 浅ノ川総合病院
- ③感染管理認定看護師教育課程の専任教員として、認定看護師はじめ、感染管理に係る専門分野における座学、学内での微生物検査演習、臨地実習等のサポートについて尽力して参ります。
- ④音楽(ピアノ、ギター)、書道、ウォーキング、芸術に触れること。



黒川 恵子 地域看護学 助教

- ①三重県鈴鹿市
- ②京都府内保健所
- ③地域看護学実習や保健師に必要な知識及び技術の習得に関する学生へのサポートをしています。その中で、地域で活躍する保健師の魅力を伝えていけたらと思います。
- ④ハワイアンフラ(かれこれ10年)、パドミントン(教室に通い始めました)



藤田 三恵 成人看護学 特任教授

- ①石川県小松市
- ②金城大学 看護学部
- ③成人看護学に関する学部生の講義・演習・臨地実習を担当しております。4年生の卒業研究ゼミでは、看護学に関する研究の実践や研究論文作成のサポートをしています。
- ④お花を育てること、旅行、映画鑑賞、歌舞伎観劇、着物を着ること・見るのが大好きです。



松本 勝 成人看護学 准教授

- ①石川県かほく市
- ②東京大学大学院医学系研究科
- ③無侵襲で身体の中を可視化できる、超音波検査(エコー)を用いたフィジカルアセスメントを看護技術として普及できるように、技術開発や教育活動を進めています。
- ④スポーツ観戦。「観る」だけでなく、「する」時間も作っていきなと思っています。



高井 ゆと里 人間科学領域 講師

- ①愛媛県松山市
- ②国立がん研究センター
- ③「よい」と「悪い」について考える、倫理学の研究をしています。なぜ悪いことをしてはいけないのだろうか? 医学の研究をよりよく進めるには? それらがわたしの問いです。
- ④考え事をしながら散歩すること。



北川 洋子 附属看護キャリア支援センター 特任講師

- ①富山県富山市
- ②訪問看護ステーション ひよどり富山
- ③新型コロナウイルス感染症の流行により、病院や施設での感染対策がより重要となっています。高度な知識・技術を学び、現場で活躍できる認定看護師を育成しています。
- ④温泉めぐり。新型コロナウイルスが落ち着けばまた行きます。

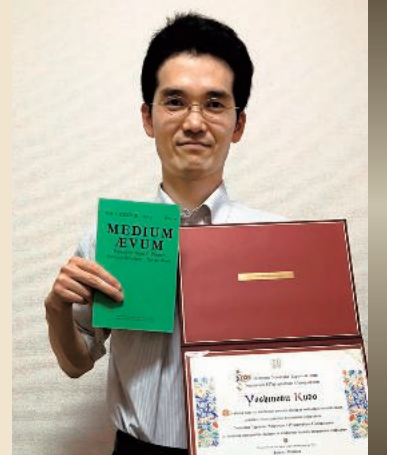


野沢 ゆり乃 母性看護学 助教

- ①石川県金沢市
- ②都立広尾病院
- ③同じ領域の先生方と協力し、母性・助産学の授業をサポートしています。講義や演習、実習を通して学生さんと一緒に日々学びを深めています。
- ④ヨガ・ランニングなど身体を動かすこと。

工藤講師が松浪奨励賞、西洋中世学会賞をW受賞

工藤義信講師(人間科学領域)が執筆した一篇の英語論文が、松浪奨励賞(日本中世英語英文学会)および第2回西洋中世学会賞(西洋中世学会)を受賞しました。受賞対象論文は、2019年にイギリス・オクスフォードの学術誌から公刊された論文で、15世紀イギリスのとある教訓的な詩が、ひとつの写本の中でいかに改変され、またそれがどのような意図のもとに改変されているのかを仔細に分析したものとなっています。





EVENT

夏と秋に
WEBオープンキャンパスを開催!

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年度もオープンキャンパスはWEBで7月と10・11月に開催しました。本学と看護学の魅力を伝える紹介のほか、今年新たに講義風景や大学祭の様子などのコンテンツも加え計17の動画をオンデマンド配信しました。さらに、WEB会議システムにて個別面談や、秋には面接対策などについての入試準備セミナーをライブ配信しました。多数の参加をいただき、ありがとうございました。



TOPICS

WEBナース・カフェ開催

能登地区の中学・高校生を対象に開催していたナース・カフェは、昨年新型コロナウイルス感染症の拡大により開催を見合わせていました。しかし、看護の魅力を伝えたいと思い、今年8月から2カ月間本学ホームページ上で「おかえり能登」のネーミングで、看護師・保健師の魅力や本学に入学した理由などについて卒業生や在学生からのメッセージを動画で配信しました。参加者から「看護師の仕事がわかって、なりたかった」となどの感想が寄せられました。



EVENT

第22回看大祭
『We are ~作り上げる一つの輪~』

看大祭は今年も学内のみで開催されました。コロナ第5波の収まった10月23日、1、2年生を中心に4年生も多数含めた約120名がドッチビー大会、マリオカート対決、謎解きゲームに参加しました。講堂ステージでは音響事故に見舞われましたが、4組ものレベルの高いダンスが披露され、手拍子で盛り上がりました。「楽しかったという感想を耳にすることができ、実行委員としてとても嬉しく思います。(実行委員長 山本紀子)」

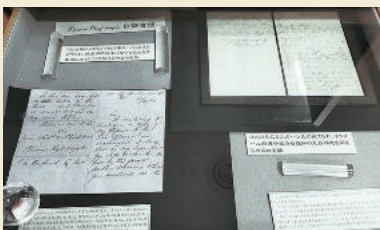


附属施設 INFORMATION

附属図書館

本学図書館の
ナイティンゲールコレクション

本学図書館のナイティンゲールコレクションのことを知っていますか? 1859年発行の『看護覚書』の初版本を始め、ナイティンゲール直筆の書簡など貴重な資料が所蔵されています。書簡は手書きの筆記体なので素人には判読が難しいのですが、今年度から英語担当として人間科学領域に赴任された工藤義信先生が卒業研究生と一緒にこの直筆書簡原稿の解読研究を始めています。何が書いてあるのか、その背景にはどういった事実があるのか、明らかになるのが楽しみです。



地域ケア総合センター

コロナ禍での
地域ケア総合センターの活動

当センターは、石川県民の保健・医療・福祉専門職と交流・連携・共同するための総合窓口および拠点となって、県民の健康・福祉の向上に資することを目的として設置されたセンターです。センターの使命を達成するために、「人材育成」「地域連携・貢献」「国際貢献」の側面から多くの事業を企画しております。臨床現場や自治体、関係機関の方々そして地域住民の皆様からの声を大切に、事業を展開・実施しています。多くの県民の皆様がセンターの事業にご参加いただけますと幸いです。



看護キャリア支援センター

感染管理認定看護師教育課程5期生

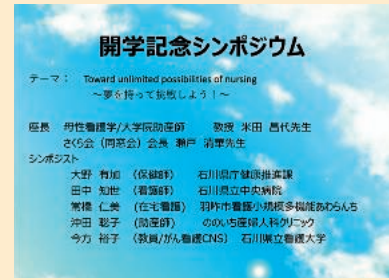
感染管理認定看護師教育課程の第5期が44名の履修生を迎えて7月1日に開講しました。座学での研修・微生物検査の演習・病院臨地実習・自施設の感染管理プログラム作成等と数多くの課題が待ち受けています。感染管理は決して一人では行えません。一人一つのポジティブワードで5期生の「5」という集合体を掲げました。全員で最後まで走り抜きます。



20周年記念シンポジウム

1年越しの 「開学20周年記念シンポジウム」 座長を務めさせていただきます

母性・小児看護学講座
教授 米田 昌代



2021年5月29日の開学記念日に昨年コロナ禍のために開催できなかった「開学20周年記念シンポジウム」をオンラインで開催し、同窓会さくら会会長の瀬戸先生とともに座長を務めさせていただきました。今回のシンポジウムのテーマは「Toward unlimited possibilities of nursing ~夢を持って挑戦しよう!~」ということで、現在、各分野・職種で活躍しておられる卒業生の皆さんにどんな風にいきごと看護職としての道を歩んでおられるのか、どんな夢を抱いておられるのか、学生の皆さんへのメッセージや大学に期待する要望等も入れてお話しいただきました。

シンポジストは石川県庁健康推進課・保健師の大野有加さん（7期生）、石川県立中央病院・看護師の田中知世さん（8期生）、羽咋市看護小規模多機能あわらんち・訪問看護師の常橋仁美さん（10期生）、のいち産婦人科クリニック・助産師の沖田聡子さん（6期生・大学院助産実践コース1期生）、当大学成人看護学教員でがん看護CNSの今方裕子さん（5期生・2015年がん看護CNSコース修了）の5名でした。お一人10分ずつお話しいただいた後、事前に学生より集めた質問二つにお答えいただき、それ以外の質問に関しては後日文書で丁寧に対応していただきました。

学生の感想からは、各分野・職種のイメージが付き、今、何を学ぶべきか、実習に対する向き合い方が明確になり、将来に対する視野が広がったようでした。大学側としても、今回のシンポジウムを通して、大学と卒業生がより一層つながれる場を作り、卒業生の夢の応援ができる大学であるとともに、これから30周年、2030年に向けて同窓生の皆様と一緒に作り上げていく大学をめざして進んでいけたらと感じました。



座長を務めた二人



シンポジストの皆様

令和3年度 後期 キャンパススケジュール (予定)

冬季休業	12月20日(月)~1月3日(月)
卒業研究発表会	12月21日(火)
補講・試験	2月14日(月)~2月22日(火)

春季休業	2月24日(木)~
卒業式・学位授与式	3月19日(土)



石川県立看護大学グローバルはまなす基金



開学から20年が過ぎた今日、社会や家族の変化、医療経済の危機に対応した医療の再編が間近いことが聞こえてまいります。本学では今後ますます時代や地域にあった看護師・保健師を輩出する努力を重ねる所存です。そこで、学生・大学院生の国内外研修を推進する事業や、教育・研究活動において地域社会に貢献する事業を推進することを目的に、「グローバルはまなす基金」を設立しました。趣旨にご賛同いただける方からのご寄附をお待ちしております。

お申込み・お問合せ先（石川県立看護大学総務課）076-281-8300

